



衆議院議員 甘利 明

国会レポート

総 覧

ようやく、WTO 非公式閣僚会議が開催されました。

就任以来、各国閣僚や WTO ラミー事務局長と電話会談やバイ会談（二カ国協議）を重ね、昨年 7 月で止まっていた WTO ドーハララウンド交渉を、事務レベルからなし崩し的にでも再開させるべきだ、と言い続けてきました。

昨年 11 月の APEC 閣僚会議で、首脳間で再開の支持をすべきだと私から提案し、首脳会議での各国の賛同を安倍総理から取り付けて以来、EU やアフリカ連合からも同様な発言が続き、ようやくラミー事務局長が決断したところでした。

この会議には、日本と EU だけ経産大臣と農水大臣の複数閣僚が出席しました（アメリカも農務長官と二人が出る予定でしたが、都合がつかせませんでした）。冒頭、ある大臣から WTO の議論を前進させよう、という趣旨で、ピンに刺されたゴキブリ（足をバタバタさせているだけで何一つ前へ進まない）のようになってはならない、と比喻を交えた発言をしてスタートした会議でしたが、続く大臣も、ゴキブリに言及したもんだから、みんなゴキブリの話を入れながらの議論になりました。

私からは「各国の前向きな議論を聞いていると、ゴキブリに刺さったピンも少しずつ抜けつつあるような気がする。ゴキブリは生命力が強いからピンさえ抜ければまた元気に前に進み出すと思う…」と議論を始めました。

私からは、(1) WTO 交渉がフルで再開した事を外に向かって発信する事、(2) 農業や NAMA（農産品以外の工業製品等）だけでなく、サービス貿易や貿易ルール、そして開発（途上国に対する対応）等、全てのバランスをとった交渉をする事、(3) 各国の政治日程からすれば（年が明ければアメリカは大統領選一色になってしまう）、年内にまとめるといふ最終合意の期限を切る事、を提案いたしました。

(3) については、期限を切ると期限内にできなかった場合に立ち直れない打撃になってしまうとの懸念が一部から

出され、結局日本提案の (1) と (2) を合意されました。

25 カ国が発言するとあって一国 3 分以内と議長が制約したものですから、「私のあと、松岡農水大臣が発言をします。これは 3 分の枠に入れないで下さい。ただし、追加料金は払いますよ。」と締めくり、松岡農水大臣にバトンタッチしました。

ラミー事務局長の提案で、今後は主張の差のある二国間協議を重ね、距離をつめてから、またマルチの会合を開こう、という事になりました。

私と松岡大臣が並んで取材を受けていたところにラミー事務局長がわざわざ「私も入るよ。」と言って、我々の間に入ってきてくれました。異例な事ですが、彼の配慮に感謝します。

今週の出来事（おとこ大臣は辛いよ）

WTO 25 カ国会議のあと、民間が主催するパネルディスカッションに、私を含めた 6 人の閣僚のみがパネリストとして招待されました。

話はどうしても WTO 交渉に行ってしまうのですが、この会合での聴衆の一人（レーマン氏）とのやり取りに関し、一部週刊誌が私を誹謗中傷する記事を掲載しています。

会議のやり取りについては経済産業省のホームページに正確に掲載されていますし、私の発言に対し、インドのナート大臣が賛意を表明した（各国の利害がぶつかりあうこの種の会議で、他国から応援演説が出る事は極めて珍しい事です）事からもその記事が正しくない事は分かると思います。またウェブ上の動画でその一部始終がご覧いただけますので、何が真実かは分かっていただけかと思えます。

閣僚間でも「甘利さん、有名税だよ。国際的に揶揄される事自体、メジャーになった証拠だよ。」と冷やかされています。